

FVI「声なき者の友」の輪
Friends with the Voiceless International



2012年 秋号

URL : <http://www.karashi.net/>

「恩送り」のすすめ

「今日から世界を変えてみよう」という難題に一人の少年が出した前代未聞の答が、映画「可能の王国」に描かれています。それが人から受けた親切をその相手に返す（ペイ・バック）のではなく、『次へ渡す』（ペイ・フォワード）というものです。

日本でも江戸時代『菅原伝授手習鑑』などに「恩送り」として表現され、庶民の間に広まっていた慣習があったそうです。誰かから受けた恩を、自分は別の人に送り、そしてその送られた人がさらに別の人に渡す。このようにして「恩」が世の中をぐるぐる回り、社会に正の連鎖を起こしていたのです。「お互い様」という考え方もこのあたりから出てきているのでしょう。

依存を作り出さない支援への取り組みとして福島県で始めた浄水器プロジェクト、福島未来会議の出席者のひとりが沖縄で始めている、お客様にコーヒーを無料で提供し、そのお客様が次の方のために寄付をする「カフェ」など・・・「ありがとう」のバトンを手渡そう、という考え方で“喜び”を次の人へ送ることによって愛が広がることを願っています。私たちが蒔く小さい愛のからし種が世界を変えると信じるからです。

「ただで受けたのだからただで与えなさい」と言われている言葉に従って、一緒に「愛のからし種」を蒔き続けましょう。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

*このようなFVIの働きはセルフサポートのカタリストによって支えられています。献金をもってご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。